

古道を訪ねて 33

巡礼道 (勝尾寺・総持寺) ⑤

前号で紹介しました文化15年建立の道標の脇には、石仏とともに青面金剛の石塔(庚申塔)が2基並べて祀られています。2基ともに享保8(1723)年6月13日の銘があり同時に建てられたことが分かります。このような例は、市内ではほかに、白島の「白姫神社」参道脇のものがありますが、なぜ2基も建てる必要があったのかは不明です。



古い青面金剛塔の脇には、昭和56年の銘がある新しい板碑があります。そこには、「地藏菩薩」と並んで「青面金剛」の名が刻まれており、花が絶えず供えられていることなどから、地域の人々が今も大事なお祀りしていることが分かります。

西に進み勝尾寺川の支流「裏川」に架かる橋を渡ります。旧道の面影を残す巡礼道を約300m進み「府道茨木能勢線」を横切って、勝尾寺川に突き当たります。橋を渡らずに、曲がりくねって流れる川沿いの道を下流方向(西方向)に600mほど進み、再び府道を横切って「川合」の集落に入ります。集落の中に入るとすぐに、今は「川合児童遊園地」になっている春日神社の旧境内に突き当たります。



▲春日神社

元禄13(1700)年に建立された本殿の屋根は柿葺きで、木製の鳥居と調和して、歴史と風情を感じることが出来ます。境内には、江戸期の石造物がいくつかあり、文政5(1822)年の石燈籠、天保5(1834)年の狛犬のほか、合祀

されている愛宕社の前には、宝永元(1704)年の石燈籠があります。春日神社を後にして、西に向かうと、巡礼街道は1000m足らずで茨木市に入ります。

